

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和4(2022)年7月1日 金曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



東京教区

修復終えた勅額を奉納

傳教大師本懐讃で遺徳讃え

伝教大師一千二百年大遠忌法要

天台宗東京教区(林觀照宗務所長)は6月7日、伝教大師一千二百年大遠忌東京教区法要を比叡山延暦寺根本中堂で奉修した。修復を終えた勅額が奉納され、法要では大遠忌記念として教区で新たに作成した傳教大師本懐讃を奉読し、報恩感謝を捧げた。

法要は13時半から開式され、林宗務所長を導師に教区から70人が出仕。根本中堂までを練り歩き、入堂後は修復を終えた根本中堂勅額が奉納され、阿部昌宏宗務総長、水尾寂芳延暦寺執行、林宗務所長が除幕した。

導師による表白の奏上後、出仕並びに随喜者で山家学生式を唱和。続いて傳教大師本懐讃が唱えられ、御遺徳を讃えた。

阿部宗務総長は「伝教大師の志、御教えをこれからも変わることなく後世に伝えていく。その証として教区ご寺院の皆さま方が宗徒を代表して勅額修復を行っていただいた」と感謝し、水尾延暦寺執行も「この法要が宗内全体に大きな功徳を巡らせて下さるよう祈念申し上げる」と話した。

2つの記念事業

傳教大師本懐讃は、大遠忌記念事業として同教区が令和元年から取り掛かり完成させた。伝教大師の人生を尋ねながら、事績や記録を知ることができる。

林宗務所長は挨拶の中で編集に携わった木内堯大正大学特任准教授の話を用いし「伝教大師のご遺徳が辿れること、史実と異なる伝承を省いたものを、誰にでもわかる新しいものを、できる限り既存の資料を崩さずに作成したい。現在の段階で史実と見なされる説だけを用いる。そし

て伝教大師の素晴らしいお言葉を実際に口に出して読んで貰う機会を作りたい」と内容や刊行に至った経緯を披露。「伝教大師のお心を立体的に復元できた」と自負している。布教などで大いに活用いただければ」と願いを語った。

また、根本中堂に掲げられていた勅額「傳教」も修復を終え今法要で奉納された。同額は、開創一千五十年を迎えた昭和12年に昭和天皇から下賜され、同15年5月4日から3日間に亘り勅額拝戴慶讃法要が営まれた。当時、

宗務総長を2度務めた青木道晃師らが伝教大師奉讃会を結成、その記念事業として下賜されたもので、同教区との縁も深いことから教区内全御寺院の賛同を得て修復を進めていた。

林宗務所長は「根本中堂の改修なった際には、その中央高くに掲げられ、不滅の法燈とともに永劫に光り輝き、ひいては本懐讃が人びとの心に宗祖大師の御心を敷衍する、よすがとなることを期待する」と感無量の様子で挨拶した。

極微

不思議なことだが、マスクを着用した人々が行き交う光景に、いつの間にか違和感を覚えなくなった。日々目にしている、それが当たり前となるのだろうか。おかしなのは、マスクを着用していない人を見ると、つい悪いことであるかのように思ってしまうのだ。周囲の何人かと同じように感じている面持ちだ▼さて政府の指針もあって、ここに至ってマスク着用の基準が緩くなってきた。屋外で距離さえ空ければオックス、室内でも同様のようだ。果たしてマスクを着けない人が多くなるのだろうか。それとも相変わらずマスク姿は減らないのか▼かつてこんな事件があった。60代の高齢者が20代の若者に「マスク着用」を注意したところ、若者は怒って暴行、注意した高齢者は下半身不随の怪我を負ったという。双方に不幸な事件だった▼同調圧力に弱いと言われる国民性が指摘されているが、日本国内では、マスク不着用の幅は広がるのだろうか。欧米各国などでは、多くの人がマスクを着けていない。テレビなどで映像を見ると、日本の街の様子とかなり違っている。病気などに起因する理由から、これまでマスクを着けられなかった人たちにとっては、同調圧力が和らぐことでホッと面もあるだろう。ともあれ、マスク着用、不着用が気にならなくなってほしいものだ。